

今月のテーマ

2012年1-2月

あなたが日本人のDNAを感じるのはどんなときか？

震災から1年が過ぎ、その間、報道でも「日本人らしさ」を表現した言葉がたくさん聞かれ、今回は、私たちが日常で「日本人だなあ」と日本民族のルーツを感じたような情景や経験を紹介しあい、我が民族の優れた点、そうでない点を再認識すると共に、そんな中に国際社会でよりよい活動をしていくためのヒントがあるのではないかと、話し合ってみました。

●他国との違いを感じ難い現代に震災がもたらしたもの

インターネット他の社会的メディアが急速な深化を遂げている今の時代、総じて国の境や自分の国籍を感じる事が少なくなっているのではないかと、との発言を皮切りに、討議が始まりました。昨年6月の会員間討議でも同じようなコメントが出ましたが、度々の震災ニュースの報道を通じて世界に発信された東北の被災地の方々の「礼節」が映し出された様々な映像によって、日本人であることに誇りを取り戻した人は多かったのではないのでしょうか？ 当会でも震災をきっかけに「日本人らしさ」について考えた会員は多かったようです。

●地域で日本語教師のボランティアをしている会員の経験談から:

- 「昨年の震災時には、最寄りの公共施設に問い合わせても、英語対応もままならず、災害対策に対する外国人向けの資料が不足して様々な問題が出ました。事前の備えがいかに大切であるかを学びましたが、日本は長い間、鎖国を続け、つい最近開国したばかりです。その間、日本人が持つ村社会、互いに結束し合い協力し合う究極的思考の良さがDNAとして今も私たちの世代に受け継がれていると感じます。震災後の厳しい現状においても、日本を離れようとする日本人が少ないのもこうしたDNAの表れだと思っております。」
- 日本を離れたくない理由は、この国特有の危機感の薄さにも起因するのではないかという別の意見もあり、また、「互いに結束し合い協力し合う究極的思考の良さが日本人のDNA」と言う見方には、最近の日本人像に違ったものを捉えている意見もありました。

- 「全般、日本人は日本を離れたがらないそうです。留学したいと思う若者も随分と減ってきたと言います。理由は何でしょうか？異文化の他者と協同することによる余計なロードを避けたいという気持の表れかもしれません。長所は行きすぎると短所にもなり、「互いに結束し合い協力し合う究極的思考の良さ」も、行きすぎると、国際社会では閉鎖的に見えるだけとなり、その良さを国際会議の席で発揮すると、悲しい結果を招きます。今や、グローバル化を止めることはできませんから、日本人らしさだけでなく、国際人としての適度な良識も不可欠でしょう。」

● 日本人のDNAの変異とその源泉について

- 鎖国の話が出たが、わずか300年で民族のDNAに変異が表れるのかと言う点から、国際社会で生きるには、逆に現代の日本人のDNAに変異が必要ではないか、という興味深い発言が出されました。
- 「DNAは親から子に伝わる時に起こる変異により新たな形質が加わるが、

これが種の保存にとって、極めて重要だそうです。これによって次世代の形質の多様性が生まれ、例えば、それまで生息出来なかった条件でも生き残ることができるようになるようです。これと同様に、文化、風土、習慣、民族や国民性なども親から子に伝わる時に変化が起こり新たな形が生まれ、これが次世代の多様性に発展し、民族としての生き残りの重要な要素となるのでしょう。」

- DNAの変異には何千年、何万年という長い時間がかかるとされるため、DNAの変異を待たずに生き残るために、その前に何かすべきことがあるのではないかという点から発せられた意見もありました。
- 「若いうちに海外で暮らした経験から、“ガイジン苦手”なDNAを克服している方も多数います。たった一世代の習慣や経験でDNAに変化が起こるとは思えませんが、他種族との付き合いをスムーズに運ぶのに十分な程度のレベルなら、努力と経験でいくらでも変われることの証かもしれません。今後は、政策とか教育とかの側面でその経験を促進することで特

- 「に若年層の海外交流に対する苦手意識を克服していかないと、日本はまた鎖国時代に逆戻りするのではないかと心配です。」
- 人の特質というのは、生まれ落ちた「種族」よりも、育った「社会」によるものが大きいのではないかとというさらに別の視点からの意見：
- 「色々な違いと言うのは実は子供の頃からの生活・環境によるものが大きいと思います。日本人であっても、幼少の頃から外国で暮らしていると日本人っぽくない日本人になります。日本人のDNAと捉えているのは、実は日本社会のDNAなのではないかと考えます。日本社会と言うのは、大多数が同一民族で、同一の言語をしゃべり、よく似た価値観を共有しているため、比較的均一な社会であると言えます。一例として、日本では、子供の頃から均一性を前提にして自明の点は省いて話をするのが一般的ですが、アメリカ社会では多様性を前提に、1から10まで順を追って説明しないと理解してもらえません。」

- 相手の育った社会的背景までを知って柔軟に対応することが、国際社会では強い武器になるということが言えるでしょう。これは社会環境から見た日本人を語ったものですが、一方、人が住まう大陸・列島などで創られる自然環境vs.民族の視点から日本人を語った意見もありました。
- 私たちが思う日本人の特徴、日本人らしさとは？
- それでは、「日本人らしさ」とは一体何なのでしょう。日本人らしいと感じる出来事を紹介してもらいました。
- 「付和雷同の精神。太平洋戦争中の世論（命がけの言論だから責められないが）、経済バブル期の経営、小泉選挙などがこれに当たると思います。同じ考えの人と一緒にいるのがたとえ失敗しても心地がよく、異なる考えを異端視する。そんなDNAは“飛んで行け”と言いたいです。」

●日本人のDNAは果たして変わったのか？

- 「日本人らしさ」として数々の良い慣わしが挙げられ、討議は延々と続きましたが、現代社会に目を向けると、「日本人らしさ」に否定的になる人も少なくないようです。
- 「半世紀ほど前の日本人のDNAは、男は黙ってsapporo!! 女は一步引いて従う(?)の雰囲気でした。良し悪しは別として、いつの間にか、男は多弁になって喋りすぎ、我がままと自己主張とを勘違いし、かつては見苦しいと言われた手振り身振りを多用して、わめきちらすようになりました。海外風習の輸入、テレビの影響などで日本人固有の風習が薄れ、また急速に変わりつつあります。ブータン国王来日の際、本来のあるべき姿を教わった気がしました。」
- 昔と今で、日本人のDNAが変わったのでしょうか？古いものに執着するものではありませんが、残すべき日本人のDNAは何かについて若い人たちの考えを聞いてみたいです。この質問を受けて、十代前半のお子さん

に同様の質問をした会員もいました。

- 「日本人らしさって、何かな？」と聞くと、「そんなの知らない」と言われてしまいました。それもそのはず。外国人なんて、生まれてからこれまで片手で数える程度しか付き合いがないのですから、お互いのDNAの違いなど認識できるはずありません。それはつまり、自国民のDNAも認識する機会がないということでもあります。しかし、それは大人でも同じかもしれません。外国人と接する機会があると、日本人らしさを体感する経験もできますが、日本人の中の自分は見えても、世界の中の日本人は見えないかもしれません。」

● 日本人はひょっとして手段が目的になっている？

- ある会員は、10年余り考えてきたことだと言って、日本人には「目的意識がない」という指摘をしました。
- 「ものごとには“目的”があって、そのための“手段”がある。審査の場や仕事の場で、定めろといわれて定めた業務について、「何をするか」はすぐ言える。しかし「何のためにそうしているのか」が、なかなか言えない。よっぽど親切な誘導でもしない限り、最後まで出てこない。」

- 「日本人は“目的”を口にしない、あるいは、できない。そう感じた例として、野球の投手がボークぎりぎりの“2段モーション”的なしぐさで走者をさすのがうまく、審判にとっては頭が痛い。どこまでが“2段モーション”か、日本人で議論をしても結論が出ない。しかし、ビデオに撮ってアメリカに聞きに行ったら、一瞬にして答えが出た。これは打者をあざむいているからボークだ」と。
- 「座席は詰めてお座りください」と、「一人でも多く座れるようお座りください」では、目的を明示しているかどうかで、前者が日本人であることは明らかです。
- 「日本人はひょっとして手段が目的になっているので、目的がなくなってしまうのかなと思います。それで思い出したのが“ふれあい”という言葉です。これが日本人は実に好きで、“ふれあい〇〇”というイベントがよくあります。出かけてみると、模擬店があつたりフリマだつたりで、客寄せに都合のよい言葉なんだと思うことがしばしばです。ところが、分からな

いのが、何を「ふれあって」その結果、何を期待しているのか、“目的”が分かりません。前のコメントのようにハグするならわかりますが、そんなことをしようものなら追い出されてしまいます。心のふれあい？地域の交流・・・？」

- 「近所に“ふれあい広場”なるところがあって、町の予算の項目に“ふれあい広場の造成”があり、視察に行ったところ、狸か野良犬しかふれあわないような野原でありました。役所が“ふれあい”というときは目的のない予算の使い道なのだとそのとき理解しました。」

●まとめ

- 今回のテーマは身近な話題だったこともあり、討議が大変に盛り上がりました。討議を終えて、結論をまとめるなど到底不可能で、ここにご紹介しましたのも、会員らの発言のごく一部に過ぎません。「まとめ」にはなりませんでしたが、全てが凝縮されていると思われる、ある会員の発言の一つをご紹介します締めくくりとします。
- 「教室で教える先生の講義も“一律の答え”を期待して問題を解かせる、まさしく日本式です。日本人らしさが習慣で作られるとすれば、社会的な

- 習慣を統治しているのは行政ですから、抵抗する力のない子供たちにはコワイ話です。一方で、東北の人達の震災時の“一律のよさ”を身近に見て私たちは日本人の自信を取り戻したことも忘れてたくないですね。」

テーマ担当： 西原 美津子／佐藤 美由紀

三浦理事長の補足コメント

- 私はアメリカ、ヨーロッパ、アジア、イスラム、アフリカ、さらには、アメリカインディアンとも親しく対話をしてきました。人類の性格、性向にはほとんど差異が認められませんでした。「文化の違い」という言葉をよく耳にしますが、大体は気候、風土と生活環境に左右されたものです。それに対応して習慣や性格、性向が形成されたと思われませんが、根本的には大差が無いでしょう。おかしい性向などは、国ごと又は地域ごとでの「比率」の問題だと思えます。たとえば、お行儀の悪い人。日本人はお行儀が悪いと取られます。確かにそうかも知れませんが、お行儀の良い日本人も沢山います。近隣のある国のお行儀の悪さは世界で飛び抜けて第一位ですが、その国でもとてもお行儀の良い人も沢山います。

- なお、私は外国人を差別しないで付き合うことにしています。そういう付き合いをしていると、なおのこと大体において皆同様という結論に至りました。
- 日本人全体でなく、大体の比率的な傾向で言うと、ご指摘にあるとおり、「付和雷同」が一番の日本人の特徴です。その他には、
 - 熱しやすく冷めやすい、
 - 平均を尊重し、優れている者、違う者を敵視するといったところでしょう。

以 上